



長高水族館のスタッフ一同

を行います。多いときには、1日に500人を超えるお客様がいらつしやることもあり、中には遠く韓国からいらした方もいました。

長浜は水族館ゆかりの地

私たちの住む長浜は、昭和10年に四国初の水族館「長浜水族館」が誕生した町です。長年にわたり町のシンボルとして町民に愛されていましたが、昭和60年に



町のシンボルであった長浜水族館の最後
(旧長浜町役場提供)

も、保育園や小学校等の依頼で特別公開も行っており、地域の環境教育

社会貢献で全国表彰

老朽化を理由に惜しまれつつ閉館しました。「我々で水族館を復活させよう！」こうして平成11年に誕生したのが、長高水族館です。

長高水族館は、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層に好評で、部員一同やりがいを感じています。長高水族館は、月1回の一般公開以外にも、保育園や小学校等の依頼で特別公開も行っており、地域の環境教育



長高水族館で産卵するカクレクマノミ

夢はイルカの飼育と長浜水族館の復活!



愛媛県立
長浜高等学校3年
水族館部 部長
苅田 祐喜



研究でも全国トップレベル

の拠点として、欠かせない存在となっていました。昨年は、このような取組の成果が認められ、公共や地域への貢献活動を表彰する「社会貢献青少年表彰」を内閣特命担当大臣である蓮舂さんからいただきました。



社会貢献青少年表彰
受賞の様子

長高水族館は、私たち水族館部の生徒たちだけで運営しているわけではありません。たとえば、1年生は「マリリアクアリウム1」という学校設定科目を全員が履修し、一人が1つの水

**全校生徒が
長高水族館のスタッフ**

平成21年から、長高水族館の公開日に合わせて町の商店街で「赤橋自遊空間」と呼ばれるイベントが開催されるようになり、私たちは町の活性化に深く関わるようになりました。赤橋自遊空間では、有志によるフリーマーケットやライブなどのイベントが開催され、町に活気をもたらししています。このイベントにも私たちは積極的に参加し、進行役やクイズ大会などのパフォーマンスで盛り上げていきます。



見事環境大臣賞を受賞!

**長高水族館と
商店街のコラボ**

審査結果を見届けるかのようにカクレクマノミの初代ペアが息を引き取りました。現在、長高水族館にいるカクレクマノミのほとんどはこのペアの子孫です。



ビジネスコース生徒によるパン販売



赤橋自遊空間

槽を1年間維持管理しています。この水槽は、一般公開時にも展示され、小さいながらも個性豊かな水槽が来館者に人気です。3年生のビジネスコースの生徒は、水族館公開時に自分たちで考案したパンを、地元のパン屋さんに製造依頼し販売しています。長高水族館の隣の部屋では、家庭クラブの生徒が、子どもたちとのアクセサリー作りをしています。これ以外にも、全校生徒が様々な形で長高水族館の活動に関わり、地域貢献活動に参加しています。

**長高水族館は
マスコミの注目の的**

長高水族館は、テレビ・新聞等によく取り上げていただいています。中でも昨年1月にNHKで全国放送された「熱中スタジアム」、今年1月にTBS系で全国放送された「夢! どうぶつ大図鑑」への反響は非常に大きく、新聞紙面での賞賛を含め数多くのお褒めの言葉をいただいています。また、今年5月にNHKで放送された「伊予路でくたく」でも紹介していただき、5

**夢はイルカの飼育と
長浜水族館の復活**

月の水族館公開日には503人の方が来館し、10年ぶりに来館者数の記録が塗り替えられました。



私たち水族館部は水族館での活動を通して、生き物の飼育技術や命の尊さ、お客様に解説するためのコミュニケーション能力など、多くのことを学んでいます。生き物の世話のために、正月にも学校に来ないといけないなど、水槽の維持管理は大変ですが、お客様に喜んでいただけることを励みに頑張っています。今後、さらに多くの人に喜びと感動をご提供できるように、部員一同長高水族館を盛り上げていきたいと思えます。長浜地域には長高水族館はもろろん、日本最古の開閉橋である「長浜大橋(通称・赤橋)や「脇川あらし」などの名物もあるので、ぜひお越しください。

将来は、高校でイルカが飼えたらいいなと考えています。イルカとのふれあいを通して、多くのことを感じ、学べたら素敵だなあと夢見ています。そして、私たちの活動が町のシンボルであった「長浜水族館」の復活に繋がることを切望しています。